

「負のスパイラル」に



ガースーです

ジャーナリスト

鈴木哲夫



急降下の内閣支持率！

新型コロナ対策が

厳しい数字が相次いだ。

12月12～13日に行われた毎日新聞の世論調査では内閣支持率は40%、不支持が49%とついに支持・不支持が逆転。

新型コロナ対策に関する質問では、菅政権の新型コロナ対策を「評価しない」が62%、「医療検査体制に不安を感じる」が69%などすべての項目で批判が半数以上だ。

19～20日に行われた朝日新聞の世論調査では、内閣支持率は40%を割り39%で下落率は何と17%。

こちらも新型コロナ対策について、GOTOトラベルを年末年始に全国で一時停止すると決めたタイミングについて、「遅すぎた」が79%、菅首相が新型コロナで指導力を「発揮していない」は70%だった。

「負のスパイラルだ。新型コロナでGOTOを止めても遅すぎると批判される。何をやっても批判され墓穴を掘る。支持率を戻すのはそう簡単じゃない」（自民党関係者経験者）

「世の中の空気を菅首相は感じ取っているのか。経済ブレーンはよく合っているが、むしろ医療関係や

厚労省関係などの感染側の意見具申をする人が少ないしそう言った人たちともっと会うべきだ。分科会の尾身茂会長と直に会ってほしい。経済よりもここは感染防止で手を打つ政策に転換すべきだ」（連立与党ベテラン議員）

菅首相は先の臨時国会でも、数少ない記者会見でも、常に用意されたペーパーに目をやり、自分の言葉をなかなか発していなかった。

新型コロナのような有事で、国民の不安や危機感に対して、リーダーの生きた自身の言葉によるメッセージは極めて重要だ。

じつは12月11日、私は、インターネット動画サイトのニコニコ生放送で菅首相と対談する機会を得た。

ニコ動では以前にも菅官房長官時代に1対1で対談番組を放送するなどしてきた。今回の番組の狙いは、国民に向かってなかなか自分の言葉で語ることがない菅首相に、国民の生の質問をぶつけ、何を考えているのかを聞き出そうというものだった。

菅首相は就任後記者会見を2度しか開いていない。ぶら下がりはある

たが、一方的にしゃべって終われば記者やテレビカメラに背を向けるというパターンが多かった。

こうした、いわば鉄壁の守りを崩そうという挑戦的な番組でもあった。

菅首相にぶつける質問内容はプロの記者たちが考えたものではない。あくまでも国民感覚を持ったユーザーから前夜から募集し、多い順から5問。さらに番組中に寄せられた中から3問。

よく永田町や霞が関の会見では質問の事前通告なども行われるが、今回は正真正銘の仕込み一切なしだった。

ところが番組冒頭、菅首相が口を開いた最初の挨拶がすっかり話題になってしまった「ガースー」だったのだ。

現場の様子や顛末を説明しよう。当日、午後3時のニコ動生放送スタート時刻の2分前。官邸内の大部屋にセットされた仮スタジオに入ってきた菅首相。分刻みのスケジュー



ルという日ごろ伝えられる首相動静そのままであった。

私は、菅氏が総務副大臣だった15年前から、これまで節目ごとに一対一で取材してきたが、首相になって初めて会う今回の対談でもあった。

そして、番組冒頭。それは打合せなど一切なくいきなり飛び出した。

鈴木「番組を御覧になつているみなさんにまずメッセージをお願いいたします」

菅「みなさんこんにちは。ガースーです」

会場全員が一瞬「えっ？」という空気。ジョークかと一部には迷いながらの笑い声も上がったが、私は思わず「それだけ？」とタメ口で突っ込んでしまった。なぜなら、新型コロナウイルスや他にも数多くの課題を抱える中でその挨拶はさすがに緊張感に欠けるからだ。

現場には私の正面に首相補佐官や広報担当者ら首相を支えるスタッフも大勢いたが全員が驚きの表情を見せた。番組終了後に、私は彼らに誰かが演出したのかどうかを訊ねると全員が「知らなかった」と否定した。案の定、「ガースー」は大きな

ニュースになり、多くのメディアが「こんなときに」と批判的に取り上げた。世論も同じく菅首相に厳しい目を向けた。

では、菅首相はなぜそんな挨拶をしたのか。菅氏と長い付き合いの自民党中堅議員はこう話した。

「あれは明らかに菅さん自身が考

えた。ニコ動では「菅」をひっそり返して『ガースー』と呼ばれていた。ネット番組ということで愛称を使おうと思ったんだろう」

じつは会場では、番組をそのまま映したモニターと呼ばれる画面が、私や菅首相の前に大きく映し出されていた。



西村康稔 経済再生担当全世代型社会保障改革担当内閣府特命担当大臣

もちろんそこにはユーザーのコメントがリアルタイムに次々に書き込まれ流れていたのだが、菅首相が登場した瞬間から「ガースーだあ」「おかえり」「かわいい」などの文字がどっと溢れた。

あとで番組を見返すと菅首相は本番直後からその画面を見ながらニコニコしていた。

「瞬間的に『ガースーです』と言った。本番を見ていたらよく分かるが仕込みはなかった」(前出中堅議員)だが、ネットの向こうにはニコ動のユーザーだけでなく多くのマスクミヤ新型コロナウイルスと向き合う国民が大勢いる。そこへ思いが至らなかったではやはり済まない。

ニコ動番組の3日後にも、菅首相の不用意な行動が批判の的となった。

12月14日にもあった。GOTOの一時停止や大人数の会合を避けて欲しいと会見したその日の夜。菅首相は、王貞治ソフトバンクホークス会長、俳優の杉良太郎氏、タレントの



みのもんた氏、二階俊博自民党幹事
長ら8人での会食に参加したのだっ
た。

当然こちらも、世論の猛批判を浴
び菅首相は「挨拶だけしたら出るつ
もりだったのだが。反省している」
とぶら下がり会見で謝罪した。

菅氏を支える無派閥議員は言う。

「官房長官の時から菅さんは夜に
3回の夕食をとる。つまり3組の人
たちと会う。政治家や経済学者、マ
スコミ関係者など各界各層との情報
交換や懇談だ。朝も同じように2、
3組とこなす。菅さんは酒を一滴も
呑めないが少しづつ食べ物だけつま
みながら会食する。それだけいろん
な人に会うというはずと菅さん
のスタイル。会食の回数が多いのは
間違いない。ただ、大人数での会食
はあまりなくて、普段は1回に2、
3人くらいです。今回は二階さん主
導だったようで、菅さんは参加しな
いかと誘われて行ったようだ。でも
さすがに思慮が浅かった」

政府分科会や西村康稔担当相、大
阪の吉村洋文知事などは、「会食を
4人以下で」と呼びかけているが、
4人と5人の線引きに何らかのエビ

デンスがたとえなかったとしても、

「このくらいの規模はだめなんだ」
とイメージできる。これは極めて良
い行政のメッセージではないだろう
か。だからこそ、この呼びかけを自
ら破るというのは、非常に大きな損
失になってしまった。

これらの「ガースー」挨拶や、会
食参加が支持率を下げた一因である
ことは否めないだろう。

いまこそ求められる

「自分の言葉」

私が菅首相と対峙したニコ動番組
は、挨拶の「ガースー」だけが大き
く取り上げられ、質疑の自身が陰に
隠れ気味だったのが残念だ。じつは
番組の30分間のやり取りで、菅首相
が踏み込み、本音を語る場面も多く
あったのである。

たとえば、こんな踏み込んだやり
取りもあった。

鈴木「GOTOに関して停止など
見直すのではという報道も出ている
がどうするんですか」

菅「まだそこは考えていません」
ところが、そう言ったあとにこう

続けた。

菅「考えていないというか今日分科
会の提言を受けたわけですから。第
3ステージになっているところにつ
いてはしっかりとした対応をと言わ
れているので、それを受けて西村康
稔(担当)大臣が中心になってそれ
ぞれの首長とこれから調整をする
と。そういうところなんです」

これからやるかもしれない?停止
などに含みを残す発言が出たのだっ
た。

そこでさらに聞いた。

鈴木「結論はきょう明日ぐらいです
か」

菅「いま時短要請とかやっているところ
がありますからそういうところ
の期限とかそれを継続して行く
のか調整して次の対策をして行きた
いと思っています。期限というのが
もう来週ぐらいですからそうした
ころをどうするかこの2、3日で
決めてその次に移って行きたいと思
います。その時短の効果も見ない
といけませんし」

鈴木「GOTOは?」
菅「GOTOについては分科会から
もうひと押しした。」

移動については感染は低いと前提提
言をいただいているんです。ただ、
GOTOについても大阪や北海道は
いまGOTOを停止していますから
それをどれぐらい延ばすのか。ある
いは東京はいまは自粛を要請してい
ますが、これからそれぞれの自治体
と調整をしてその先をどうするか含
めて政府としては対応して行きたい
と思っています」

こうして追ってみると、明らかに
GOTOについて菅首相の態度は軟
化し、停止などの対策を検討する可
能性を示唆したことが分かる。

最初に語った「考えていません」
が切り取られて報じられたことも
あって、その後14日に年末年始のG
OTOは全国一斉に停止することを
菅首相が発表した際には「突然の転
換」「ついこの前まで考えていない
と言っていたのに」「内閣支持率の
急落で急遽中止に」といった解説が
飛び交った。

しかし、決して急転ではない。そ
こに至るまで徐々に何らかの見直し



が頭の中にあつたことを、ニコ動番組内での菅首相の言葉は裏付けていたのだ。

国交相幹部がこんな証言をした。

「ニコ動番組の週の半ばの9日ごろから菅首相はごく近いブレインなどには『手を打たなきゃならないか』と話していたという。頑なだった姿勢を変えたのは分科会だ。あそこまで踏み込んで停止を示唆し、何度も何度も尾身会長が会見した。官邸が動かなければさらにこのあとも会見を重ねる姿勢も見せていた。これが首相を動かした。専門家の知見に対しても突っ張ることはできないという判断が菅首相の中に出てきた」

ニコ動番組では、菅首相は他にもこんな興味深いことを語った。

——**一律10万円が給付されたが今後**



田村憲久厚生労働大臣

も追加の給付はあるのか

「給付金。これについてもこれまでも予備費を活用してきた。10万円もそうですが今後状況を見ながら対応して行きたいし予備費を活用して行く。状況を見ながら、厳しい状況になつたら大変なことですから給付金についても機動的に対応して行きたい」

——**中国の王毅外相が尖閣の中国公船の派遣を正当化した**が菅首相がそう言われたら反論するか

「言われたらその場で言います。」

しっかり対応する。バイデン氏との電話会談で尖閣について日米安保の適用を言ってくれたのは予想していなかった。これまでは日本が長い間外交努力をしてアメリカにそう言ってもらおうという時間もかけてやってきたが今回それをいきなり言ってくれた。これは事務方（外務省）が電話会談の準備の中でやってくれた」

そして、私はユーザーの質問を済ませたあと、番組最後の数分間、菅首相にストレートに言った。

鈴木「この前河野太郎行革担当大臣を取材したら菅さんがせっかちだと。早くやれと。しかし、そのスピード感を生かさなきゃいけないのはいまコロナ対策。後手後手になっていく」

菅「いろんなご批判があるのは承知しています。ただ、経済。ここを私は命と暮らしを守ると言っています。が、経済を壊したら大変なことにな





A4用紙が無しで話してくれてうれしい

る。アクセルとブレーキを踏みながら一生懸命考えています。いろんなご批判もあると思いますが命と暮らしが壊れたら地域そのものも壊れる。GOTOが悪いことになってしまっていますが、分科会の提言に設けながらできることはスピード感を持ってやって行きたいと思っています」

鈴木「もっと菅さんの言葉で話せばいい。紙も見ないで」

菅「厚労大臣とか西村大臣とかが話をして必要な時には私。それが菅内閣。しかし、新型コロナについては何が一番かを常に考えて（発言など）全力でやっていきたいと思っています」

ニコ動番組をフルにご覧になった方はお気づきになったと思う。

30分の間、菅首相はやり取りの7割ぐらいいはペーパーを見ていない。

私や司会の馬場典子アナウンサーを見ながら自分の言葉で語った。

じつは菅首相の手元には、文字と赤線がびっしりのペーパーがあった。質問を想定して事務方が準備したものであった。

最初のうち時々そこに目をやって

いた菅首相だったが、私が追加質問を重ね、15年間続いてきたお互いに遠慮しないやり取りをして行く中で、もう目は手元の紙に落とさなくなった。

たどたどしい表現や言葉に詰まる場面もあったが、自分の言葉だから真意は伝わってきた。直接対談した私の実感だ。

トップリーダーは考えや思いを自分の言葉で国民に伝え、国民は実感的、そこで初めて今度は次の本質的な賛否の政策議論の段階に移れる。自分の言葉は大前提だ。今後の内閣記者会の会見や国会での予算委員会などの場でそうした菅首相の姿勢を望みたい。

ニコ動番組の最後のほうで、菅首相が決意を話しているときにリアルタイムでこんなユーザーの書き込みが流れた。

《A4用紙が無しで話してくれてうれしい》

菅首相はこの書き込みに気づいただろうか。

(了)

